

平成29年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473500708	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホーム湘南かさま		
所在地	( 247-0006 ) 横浜市栄区笠間3-20-27		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成29年9月29日	評価結果 市町村受理日	平成30年1月15日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人グループとの連携をとり、24時間体制での医療連携と「その人らしさ」を尊重した「お看取り」までのトータルケアを日々実践している。開設当初からご入居頂いているお元気な入居者様もいらっしゃいますが、「入居者さまの思い」「ご家族様の思い」に寄り添い、安全で安心できる環境において、その人本位の最良のケアを提供している。また慢性的な人材不足から、業務改善の1つとして調理員の採用が新たな試みとしてあげられる。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成29年11月2日	評価機関 評価決定日	平成30年1月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR大船駅より、バスで5～6分のバス停「笠間町」にて下車し、徒歩6分程の所にあります。道路を隔てた隣には大規模な障害者施設があり、周辺はマンションや一戸建て、保育園、公園などがあります。幹線道路沿いに立地している割には静かな環境です。

<優れている点>

系列の医療法人グループとの医療連携や看護、介護のプロの連携によるサポートを行い、入居者の生活を見守っています。入居者個人が訪問看護契約を結ぶことで、巻き爪の処置などの医療行為も出来るようになってきました。看取りについても、「看取りに関する指針」に基づき支援し、家族に囲まれて最期を過ごすなど、きめ細やかな悔いのない支援を提供することで、入居者、家族の安心と信頼を得ています。運営推進会議は多種多様な人々が参加し、情報交換や意見交換をし、事業所の活動に活かしています。また、「その人らしさ」を大切に、利用者の誕生会は月でまとめたりせず、必ず利用者の誕生日の日に行い皆で祝っています。

<工夫点>

調理員を導入することで、職員は入居者のケアに専念できるようになっています。職員が相談して、「排尿・水分・睡眠チェック表」に体重・血圧・SPO2(血中酸素飽和度)などを追記し、入居者の状態が1枚のシートで分かるように改善しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム湘南かさま
ユニット名	1階ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価ループホーム湘南かさま.xls	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝朝礼にて、ホームの理念・ユニット別の理念を全員で唱和している。全体会議では、この理念が日々のケアに活かされているか確認をし合っている。	事業所の理念とは別に、ユニットごとの理念を職員が話し合っ作っていません。職員は名札と一緒に理念を携帯し、毎朝朝礼時に唱和しています。職員と入居者が同じ目線で共に過ごすことを大切にし、日々の支援に理念が活かされているか立ち戻って確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご家族様の理解と協力を得ながら、積極的に地域行事に参加している。隣接の障害者施設との交流を深め、イベントのお誘いも受け、参加している。	町内の盆踊りに家族の協力を得て全員参加しています。隣の障害者施設のフェスタに行ったり、事業所の音楽療法に障害者を招いたり日頃から交流をしています。年2回の保育園児の事業所訪問や地域のボランティアの来訪に入居者は癒されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	1か月に2回、区のボランティアによる音楽療法を開催、隣接する障害者施設の入居者やスタッフも参加し、音楽の楽しさを共有し合い、交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会長・区役所の高齢者支援担当・地区社協会長・民生委員・地域包括・社会福祉協議会・家族代表・入居者代表の方たちと、活発な意見交換を行い、また助言を頂きながら、より良い環境作りに努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、町内会や区役所、地域包括支援センター職員、家族・入居者代表以外にも連合会長や社会福祉協議会会長、職員、保育園長など多彩なメンバーで行っています。地域の情報を得たり、様々な意見交換が行われ、支援に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護、成年後見該当者、在宅生活が困難な方々の受け入れについては、行政からの相談に応じ、満床時は待機して頂き、出来るだけ受け入れられるよう努めている。	区役所の高齢者支援課とは、運営推進会議などで事業所の実情を知ってもらい、意見交換をしています。生活支援課とも連携を取り、出来るだけ入居者の受け入れの要望に添うよう努力しています。民生委員の人々の事業所見学に協力しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	朝礼、全体会議において、職員間の周知徹底を図っている。入居者の行動を抑制しない、伸び伸びとし自由な生活が送れる環境作りを目指している。	身体拘束について研修を行い、職員は正しく理解しています。転倒による骨折防止のためベッドに柵を取り付けた入居者について、危険を回避しながらベッド柵を外す方法について職員で話し合い、床にマットレスを敷き、見守りを強化することで身体拘束を解消しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法について、全体会議、ユニット毎のカンファレンスにおいて理解を深めている。また暴力のみならず暴言や無視等不適切なケアについて話し合い、決して行わないという徹底に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全体会議で日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修を行い、ご家族や申込みの見学に来られた方々に、必要に応じて説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の見学の時点で、将来を含めた十分な説明を行い、質問に応じている。契約時に理念、方針、医療連携体制、看取りの指針について説明し、理解と了承を頂いている。契約改定時には、家族会の席にて書面で説明をし、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の際、家族が気軽に意見が言えるような雰囲気作りに努めている。家族会では、懇親会の席で意見を頂く。運営推進会議では、入居者代表に要望を伺っている。入居者とは、意見が言い易いよう信頼関係の構築に努めている。	家族会や家族・入居者代表が出席する運営推進会議で、管理者が意見などを聞いています。法人は年1回「お客さまアンケート」として家族に満足度のアンケートを取っています。結果は法人が集計し、事業所に戻しています。トイレの臭いについての意見には強力消臭剤で対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員が自由に意見が言えるような雰囲気や環境を大切にし、全体会議、フロア会議、朝礼、家族会の反省会等職員の意見や提案を尋ねる機会を設け、それを反映出来るよう心掛けている。また暑気払い等の親睦会には出来るだけ参加してもらい、職員から素直な意見を聞かせてもらっている。	法人では年1回「職員アンケート」を実施し、職員意見を吸い上げています。内容によって検討し、全体会議で周知しています。管理者は日頃から意見を言いやすい雰囲気を作り、年2回の面談では自己評価について話し合っています。親睦会などざっくばらんに話し合える場を大切にし、活用しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	正職者にはスキルアップ評価を実施し、半年に1回評価についての面談を行い、モチベーションアップに努めている。非常勤職員にも、外部研修に参加してもらい、復命の機会を設けている。職員一人一人の得意とする分野にそれぞれ関わってもらい、貢献してもらっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人教育には、先輩が時間をかけてマンツーマンで関わり、入居者との接し方等丁寧な指導を実施している。法人内外の研修を受ける機会を確保し、スキルアップ強化に努めている。また職員に意欲的な資格取得を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内で施設長会議、計画作成者研修を実施している。法人内のグループホームの職員間で活発な意見交換を行い、職場に持ち帰り復命し、職員全員の共通認識を高め、ケアの改善に役立てている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に細かい情報収集を行い、心身の状態を把握しながら、本人の思いをしっかりと受け止め、コミュニケーションをとりながら、本人に受け入れてもらえる信頼関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの家族の苦労や、今までのサービス利用等、ゆっくりと経緯を伺い共感し、最初の関わりを大切にしている。又ご家族の要望を理解し、早い時点で信頼関係を構築するよう努め、不安をなくし、ご家族が安心して頂けるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族・ご入居者とのきめ細かなアセスメントを通して、希望する他のサービスにも対応している。また他のサービスに繋げるためのネットワーク作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援する側、される側という意識をもたず、暮らしの中で共に分かち合い、共に支え合う関係作りに努めている。また安心して、穏やかに一日を過ごして頂けるような支援を常に心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族とご入居者本人との絆を大切にしながら、ご家族と共にご本人を支える姿勢で、一緒に考えていける、自然な人間関係を目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域に暮らす友人と買い物に出掛けたり、喫茶店へ出かけたり、馴染みの場所や馴染みの方との関係が途絶えることのないような支援を心掛けている。	友人と一緒に馴染みの喫茶店であんみつを食べるのを楽しみにしている入居者がいます。家族と一緒に外出したり、ファミリーレストランで外食したり、墓参りに行く入居者もいます。今まで大切にしてきた馴染みの関係継続を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者同士の関係の理解に努め、孤立を防止し、共に支え合いながら、暮らしを楽しめるよう支援している。またご入居者同士の関係がうまくいくよう、職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、ご家族からの相談に応じたり、ご家族が気軽に立ち寄って頂けるよう、サービス利用の間に培われた関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員がご入居者一人一人の思いや要望に耳を傾け、受け止める努力をしている。意思疎通困難な方には、非言語コミュニケーションを活用し、ご家族に情報を頂きながら、思いを察するケアの実践に努めている。	職員は入居者と毎日接することで信頼関係が出来、入居者の動きや仕草など、体での表現が理解できるようになっています。スキンシップをしながら話しかけると嫌そうにしたり、顔が生き生きとしてくるなどの入居者の反応で思いを察しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーの配慮を行い、過去の情報収集をご家族に協力して頂きながら進め、それをより多く把握し、独自のアセスメントを作成し、職員全員でそれを共有し、今の生活に活かす支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今出来ていることに着目し、有する力を出来る限り発揮できるよう努めている。職員間で一日の様子を細かく確認し、新しい気づきを得ながら、その日の心身状態を、総合的に把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご入居者本位の介護計画に努め、カンファレンスを定期的開催し、職員間で意見を出し合い、ご家族にも伺いながら、ご本人がより良く暮らす為のケアをチームで作成している。	アセスメントシートが1から5まであり、入居者状況をかなり細かく観察して記載しています。ケアプラン立ち上げシートや気づきシートで、さらに入居者の情報収集をしています。サービス担当者会議で家族の意見を取り入れながらケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日一人一人の日常生活を記録し、日勤・夜勤のそれぞれが申し送りを確実にしながら、心身の変化を早期に見発見できるよう、職員間・訪問看護ステーションと情報共有を図り、健康管理に努めながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟な支援に取り組む手段として、訪問歯科・訪問マッサージ・音楽療法を取り入れている。また要望に応じて訪問理容を実施している。家族会は、地域のボランティアをお招きし、入居者様、ご家族様に大変喜ばれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議に、区役所・連合会長・町内会長・地区社協会長・民生委員・社協事務局長・地域包括の方々に参加して頂き、情報交換や協力関係構築に努めている。また近隣の障害者施設とは、音楽療法を通して交流関係を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的に訪問診療を受け、かかりつけ医希望の受診に関しては、ご家族や成年後見人の方に受診をお願いし、対応して頂いている。	入居者は、月1回内科、2週間に1回歯科の訪問診療を受けています。眼科は、入居者や家族の希望するかかりつけ医を家族の付添いで受診しています。また個別に契約を締結し、週1回の訪問看護を受けています。受診結果は、「業務日誌」などで情報を共有しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護との連携を密にし、体調の変化を把握し、急変時の早期発見を心掛け、速やかに入居者が適切な医療機関の受診や看護が受けられるよう、連携体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療との連携を密に行い、体調の状態変化を把握し、退院後も医療・訪問看護との情報交換を強化しながら、スムーズにホームでの生活に戻ることが出来るよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意向を踏まえ、ご家族や医療関係者と連携を図り、看取りの指針を再確認し、十分な説明を行いながら、その人らしい最期が迎えられるよう、またご家族に悔いが残らないよう支援している。	入居者は入居時に「重度化した場合における医療体制指針」の説明を受け、「確認書」で対応を確認しています。更に、終末期になると、「看取りに関する指針」の説明を受け、医療関係者や家族とも協議して「看取り介護の同意書」で確認し、チームで看取っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	夜勤時の緊急時対応等、いざという時に慌てないように、危機管理マニュアルに基づき、全体会議やカンファレンスで再確認し合い、全員が実践力を身に付けられるよう努めている。AED講習も積極的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施している。地域の防災訓練に、積極的に参加するよう心掛けている。また消防署の方や地域の方々、ご家族にも立ち会って頂き、助言を頂いている。防災マニュアルも適宜更新している。	避難訓練は、夜間や水害時の避難を想定して、入居者、職員、地域住民及び家族も参加して年2回実施しています。災害時用として、3日分の水や食料の他にガスコンロなどの非常用品も備蓄し、「災害備品チェックシート」で管理しています。防災頭巾も備えています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価ループホーム湘南かさま.xls	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者のその人らしい尊厳ある姿を大切にしている。さりげないケアを心掛け、自己決定しやすい言葉かけに努めながら、プライバシー保護や守秘義務の周知徹底を心掛けている。	職員は「接遇（マナー）」、「個人情報保護」及び「プライバシー保護」の研修やミーティングなどで学び、入居者の尊厳を守る生活支援を心がけています。言葉掛けなどで不適切な対応があった場合には、お互いに確認し合って、入居者の人格を尊重するように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	その人らしい生活が維持できるよう傾聴の姿勢を忘れず、表情や全身での訴えを受け止め、自己決定できるような働きかけをしている。また職員間で情報を共有しながら、それぞれに合う声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の目線ではなく、入居者の目線に合わせ、入居者の様子を常に観察しながら、一人一人のペースに合わせた暮らしの支援を心掛け、一日の過ごし方を個々に、柔軟に対応できるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人一人のこだわりのスタイルを把握し、その人らしい身だしなみや、自分が好むおしゃれが出来るよう支援している。また意思疎通困難な方には、整容の乱れ、食べこぼし等清潔が保持できるような支援を行い、毎日を気持ちよく生活して頂けるよう努力している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員とご入居者が同じテーブルを囲み楽しく食事できる環境を心掛け、食事の下準備は出来る方をお願いしている。また季節感を味わえるよう、旬の食材にもこだわり、定期的に新しい食器も購入し、喜んで頂いている。	職員は業者が納入した食材を使用して調理を行い、入居者に合わせて、常食、刻み食及びミキサー食を提供しています。食事は職員と入居者が同じテーブルで会話をしながら味わっています。職員は、ミキサー食の入居者には料理が何なのかを説明しながら食事介助をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養のバランスの摂れた家庭的な食事を提供し、食事量・水分量の確保を行っている。個人の身体の状態に応じて食事形態を選び、出来るだけ自分で召し上がって頂けるよう支援している。個人の食習慣も大切にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立度に合わせ、毎食後自発的に口腔ケアが行なえるよう支援している。また定期的に訪問歯科を利用し、口腔ケアの実施や口腔内の清潔保持を行うためのアドバイスを歯科医師・歯科衛生士より頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者それぞれの排泄リズムを把握し、プライバシーに配慮しながら、排泄チェック表を活用し、一人一人の能力に応じた排泄の自立に向けた支援を心掛けている。	入居者ができるだけトイレで排泄できるように支援しています。「排尿・水分・睡眠チェック表」を活用して、入居者の排泄リズムを把握したり、動作や態度などから排泄の意思を把握しています。職員は入居者の尊厳を損なわないように、声掛けをしてトイレに誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便ができるよう、水分量の確保や乳製品等の提供を行い、レクリエーションに短時間でも運動を取り入れ、便秘の原因を見極めて、なるべく薬だけに頼らない支援を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者の生活習慣を大切にし、自己決定ができ、入浴を楽しんで頂くことが出来るよう支援している。気持ちよく入浴して頂くため、浴室や湯の温度に特に注意を払い、沐浴剤を使用して、リラックスして入浴して頂けるよう支援に努めている。	入居者は原則週に2回入浴し、職員2人介助で支援することもあります。浴槽は個浴で、浴室や湯温は、個々の希望に合わせて、入浴者が変わると共に湯を取り換えています。入浴中、職員と会話が弾む入居者もいます。柚子湯で季節を感じたり、入浴剤及び個人用の石鹸やシャンプーを利用する入居者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の生活習慣を把握し、日中の活動を促しながら、夕方からの過ごし方が落ち着いたものになるよう、夜は安心して眠れる環境を整える支援をチームで取り組んでいる。また入居者の状態・体力に合わせて、午睡の声掛けも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬している薬の効能・副作用等を理解し、服薬の支援と管理を行い、症状の異変の早期発見に努めている。またカンファレンスでは、職員個々の服薬に対する理解を深め、変更には確認を必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の能力に合った役割を持って頂き、自宅にいた時と同様に、嗜好品が楽しめるよう、周囲に配慮しながら、個別支援を行っている。また気分転換にレクリエーション等を活用して、生活にリズムを付ける支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者の希望に添い、友人・ご家族の協力を得ながら、買い物等に出掛けられるよう支援している。またご家族が本人の希望をきき、散歩やファミレスに連れだして下さる。友人と喫茶店に行き、好きなおやつを召し上がられる方もいる。	出来るだけ入居者が外出するように支援しています。道路を挟んだ隣の障害者施設の中庭に散歩に出掛けたり、地域の夏祭りに、会場の近所の公園に出掛けることもあります。家族会で、フラワーセンターに出かけることもあります。家族の付き添いで墓参りや長年の友人と近所の喫茶店に出掛ける入居者もいます。	入居者の介護度が高くなるとともに外出の機会が減少してきています。職員の付添いだけでなく、家族会や家族個々の更なる支援などを得て、外出の機会を増やすことも期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お預かりしている小遣いから、友人と買い物や喫茶店に行く方には、その都度小遣いをお渡ししている。また仏壇の生花を月3回程度配達してもらい、直接支払って頂いている。新聞の購読料も小遣いより支払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価ループホーム湘南かさま.xls	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	「家族や友人に電話したい」と言われた時は、プライバシーに配慮し居室で掛けて頂く。「(家族の)声がかきたい」と言われた時には、何度でもご家族に電話し、話をして頂いている。また年賀状・暑中見舞いのやりとりをしている方には、スタッフが一緒にポストイングし、継続できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングのレイアウトに季節感を取り入れ、それを話題に入居者の興味を引き出しながら、家庭的な雰囲気作りを意識しつつ、心地よく暮らせる共有空間を整える支援を行っている。	リビングや廊下の壁には、家族会の行事の写真や季節を感じるハロウィンなどの装飾物が掲示されています。リビングには、ソファ、テーブル及びテレビなどが整然と配置され、窓からの十分な採光で明るい落ち着いた雰囲気となっています。入居者はテレビを鑑賞したり、洗濯物を畳んだり、会話を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性の良い人との席の配慮を行っている。個々のペースに合わせて、心地よい場所で過ごして頂けるよう努めている。また思いを伝えられない入居者に対しては、表情等でキャッチし、居室に戻って頂いて、寛いで頂く誘導を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に自宅で使われていた家具や衣類、小物、化粧品等持参して頂き、自立度の高い方は、テレビやラジオ等を持ち込んで頂き、居室が自宅と同じように過ごせるよう配慮を行っている。	エアコン、介護用ベッドは事業所の備え付けです。入居者は危険物以外の持込みができ、年代物のタンス、テレビ及び仏壇を持ち込んでいる入居者もいます。また、昔の踊りの写真や昔制作した人形などを飾って、自宅と同じ雰囲気過ごしている入居者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の出来る事、解かる事を見極め、個々に移動時など、手摺りを使用したり、両手引きをしたり、後方から見守ったりと、安全且つ、出来るだけ車いすに頼らず、自立した生活が送れるような支援を心掛けている。		

事業所名	グループホーム湘南かさま
ユニット名	2階ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝朝礼において、当日出勤者全員（早番は見守り）でホームの理念・ユニット別理念を唱和し、日々のケアに活かせるよう実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご家族の理解と協力を得て、積極的に町内会などの地域行事に参加させて頂いている。地域の一員として、隣接の障害者施設とは交流に努め、各々の施設イベントに参加し合い、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	月に2回、区のボランティアを招き、音楽療法を開催している。施設の入居者だけではなく、隣接の障害者施設の入居者も参加して頂き、音楽の楽しさを共有して頂いている。また、地域の方々からの相談にも随時応える体制が整っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会会長、区役所高齢者支援担当・地区社協会長・民生委員・地域包括・社会福祉協議会・家族代表・入居者代表の方と活発な意見交換を行い、助言など頂きながら、入居者にとってより良い環境を作ることに努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護・成年後見該当者・在宅生活が困難な方々の受け入れは、行政からの相談に積極的に応じるよう努め、満床時には待機者として登録して頂き、出来るだけ受け入れるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者の人としての尊厳を守ることを理解し、ケアの質の向上に努め、入居者の行動を制限せず、自由で安心して暮らせる環境作りを心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法について、施設の全体会議やカンファレンスにおいて職員の理解を深めている。入居者の人としての尊厳を守り、不適切なケアを行わないよう、ケアの質の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全体会議や施設内において日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修を行い、その理解を深め、必要に応じて説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の見学の時点で、将来を含めた現実的な説明を十分に行い、質問に応じている。契約時には施設の理念、方針、医療連携体制、看取りの指針について説明し、理解と了承を頂いている。契約改定時には、家族会の席において書面と口頭による説明を十分に行い、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が気軽に意見が言えるような雰囲気作りに努めている。家族会の際の懇親会の席で意見を頂いたり、運営推進会議においては、入居者代表に要望を伺っている。施設の玄関には意見箱を設置していることはもとより、意見が言い易いような信頼関係の構築に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議、カンファレンスなど以外にも、職員間でよくコミュニケーションをとりながら、職員が自由に意見や提案を出せる機会を設け、日々の介護に反映させられるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	正職員にはスキルアップ評価を実施し、半年に1度の面接を行い、モチベーションの維持に努めている。非常勤職員にも外部研修の機会を設け、職員一人一人の特性に合うものに参加してもらうよう計らい、自己研鑽に努めている。慢性的な人材不足が課題としてあるが、職員は協力し合い業務に励んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人教育にはマンツーマンで先輩職員が関わり、入居者への対応を丁寧に指導している。正職員、非常勤職員の区別なく、法人内外の研修へ参加する機会を設け、職員それぞれの特性に合うものを選択し、スキルアップできるように進めている。また研修内容を他の職員と共有し、ケアに活かすよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の管理者会議、研修において、活発な意見交換や情報交換、勉強会、行事への支援などを経て、他の施設との協力体制を構築している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の思いをしっかりと受け止められるように、事前に細かな情報収集を行い、コミュニケーションをとりながら、安心して生活できるよう信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居までの家族の苦労や経緯を伺い、家族の思いを受け止めるよう、最初の関わりを大切にしている。家族の要望を伺い、早い時点で不安をなくし安心して頂けるよう、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族のニーズの把握をするために、細かなアセスメントを行い、必要とするサービスへと繋げるよう対応している。また、サービスに繋がるためのネットワーク作りにも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	安心して穏やかな生活を送る中で、支援する側、される側という区別なく、共に思いを分かち合い、共に支え合う関係としての関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族との絆を大切にしながら、家族の思いに寄り添い、家族と共に入居者を支えていく人間関係の構築と、家族が抱える不安や思いを相談しやすい雰囲気作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽に地域に暮らす友人や、来訪された親族と共に買い物や外食に出掛けたりし、馴染みの場所や馴染みの方との関係が途切れないよう支援している。生活歴を把握し、その人らしさを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性を理解し、一人一人が支え合いながら、孤立することなく、穏やかに楽しく生活していけるよう、日々変わる入居者の状態を把握し、職員が関係の調整役となるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も、家族からの相談には随時対応している。サービス利用中に培った関係を大切に、気軽に施設に立ち寄って頂けるよう支援に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の入居者の状態をよく観察し、その方の行動や表情から、必要に応じ非言語的コミュニケーションなどを用いて真意を引き出し、入居者一人一人の思いを受け止められるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮し、入居者本人や家族から聞き取りを行い、その人らしさを大切にする支援が出来るよう、職員間でも情報の共有をしながら、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化していく入居者の状態を把握し、新しい気づきを得ながら、入居者の今出来ることに着目して、その有する力を出来る限り発揮できるような環境を整え、それを維持していけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的開催しているカンファレンスにおいて、新しい気づきなど職員間で意見交換・情報共有しながら話し合い、家族の意見も取り入れながら、職員全員がチームとして利用者本位に基づく、より良い生活が送れる介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を良く観察し、気づきをケアの実践へと反映させるため、日常生活を個別記録に記入し、体調の急変など早期発見出来るよう、職員各自が申し送りを確実にしながら情報共有を行っている。また、医療連携体制にも記録が反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々変化する入居者の状況から、新たなニーズ発見があり、それに柔軟に対応するべく、訪問歯科・訪問マッサージ・音楽療法を取り入れている。要望に応じて訪問美容の実施も行われている。家族会は域ボランティアの協力を得て、隔月で開催され好評を頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議に区役所・連合会長・町内会長・地区社協会長・民生委員・社協事務局長・地域包括の方々に参加して頂き、情報交換と協力関係構築に努めている。それにより地域ボランティアの要請等にも尽力を頂いて、音楽療法や家族会へ支援して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月定期的に訪問診療を受診し、入居者の状態の把握をし、適切な医療を受けられるよう支援をしている。個別にかかりつけ医の受診を希望する場合には、家族対応や成年後見人の方に対応をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の関わりの中から得られる気づきから、入居者の状態を把握し、急変時の早期発見が出来、訪問診療・訪問看護と連携を密にとり、速やかに適切な受診や看護へと繋げられるよう支援の体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より入居者の状態を家族、医療関係者と連絡を密にとって情報交換し把握に努めている。また可能な限り入居者の様子も見舞う事で確認して、早期退院へと繋がるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師の診断から早い段階で家族と終末期のあり方（看取り）についての十分な説明と話し合いを行い、本人と家族の意向を踏まえ、安心安楽にその人らしい最期を迎えられるよう、入居者に関わる者が1つのチームとなり支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	独自の救急対応マニュアルが作成されており、職員はその手順や対応が周知徹底されるよう、定期的に確認を行い理解している。救急搬送を速やかに行えるよう医療機関との連携体制も整っている。AED研修も受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	独自の災害時避難マニュアルが作成されており、定期的に消防署立会いのもと避難訓練を行っている。また、運営推進会議に参加して頂いていることから地域との協力体制の整備も整えられている。消費期限を確認しながら、災害時の備蓄品も準備されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者のその人らしい尊厳ある姿を大切にしている。介助ではプライバシーに配慮しながら、さりげないケアを心掛けている。また、職員はプライバシーの保護、守秘義務について理解し、その周知徹底に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の状態に関わらず、意思疎通困難な方には、日頃からよく関わり、その表情や仕草から意思を読み取り、自己決定が出来るよう働きかける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者一人一人のペースを大切に、入居者の状態みて声掛けをし、その人らしい暮らしの支援を心掛け、職員はそれに柔軟に対応していくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしさを大切にすることを心掛け、その人らしい身だしなみやオシャレが出来るよう支援している。また意思疎通困難な方には、気持ちよく生活して頂けるよう、整容の乱れや清潔保持が出来るような支援に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と入居者が同じ食卓を囲み、楽しく食事が出来るような雰囲気作りを心掛けている。食事の準備や片付けは出来る方をお願いしている。また、入居者の好みや彩り、季節感が味わえるような工夫を施し、おいしく召し上がれるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人の食習慣を大切にし、栄養のバランスの摂れた家庭料理を提供し、一人一人に応じた食事量と水分量の確保を心掛け、また嚥下状態を把握した食事形態の工夫を施し、食事が楽しめるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔内の不衛生は誤嚥などの原因となるため、毎食後に自発的に口腔ケアが出来るような声掛けや介助を行っている。また定期的に訪問歯科を利用し、口腔ケアの実施や口腔内の清潔保持をするためのアドバイスを歯科医師・歯科衛生士から頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者それぞれの排泄リズムを把握し、プライバシーに配慮しながら、排泄チェック表を活用して、一人一人の状態に応じた排泄の自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便が行なえるよう、水分量の確保や乳製品等の提供を行い、日課のレクリエーションにおいても短いながらも運動を取り入れ、便秘の原因を見極め、なるべく薬に頼らない排便が行なえるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を安全に、楽しんで頂くことが出来るよう、浴室の温度や湯温を調整し、リラックスできるよう沐浴剤を使用したりなどの工夫をして、入居者の生活習慣を大切にして希望に添うよう、個々に応じた入浴支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の生活習慣を把握し、日中の活動を活発に過ごして頂くよう支援し、夜は安心して眠れる環境を整える支援に努めている。また入居者の状態を見極め、体力に合わせて午睡の声掛けも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬している薬の効能・副作用等を理解し、服薬の支援と管理を行い、症状の異変の早期発見に努めている。またカンファレンスでは、職員が個々の服薬に対する理解を深め、変更には確認を必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者一人一人の能力に合った役割を持って頂き、自宅にいた時と同様に、嗜好品が楽しめるよう、周囲に配慮しながら、個別支援を行っている。また気分転換にレクリエーション等を活用して、生活にリズムをつける支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者の希望に添い、友人・家族の協力を得ながら、買い物等に出掛けられるよう支援している。また家族が本人の希望をきき、散歩やファミレスに連れ出してくださる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お預かりしている小遣いから、友人と買い物や喫茶店に行く方には、その都度小遣いをお渡ししている。また仏壇の生花を月3回程度配達してもらい、直接支払って頂いている。新聞の購読料も小遣いから支払っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	「家族や友人に電話したい」と言われた時は、プライバシーに配慮し居室で掛けて頂く。「(家族の)声が聞きたい」と言われた時には、何度でも家族に電話し、話をして頂いている。また年賀状・暑中見舞いのやりとりをしている方には、スタッフが一緒にポストイングし、継続出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングフロアのレイアウトに季節感を取り入れ、それを話題に入居者の興味を引き出しながら、家庭的な雰囲気作りを意識しつつ、心地よく暮らせる共有空間を整える支援をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性の良い入居者との席の配置を行っている。個々のペースに合わせ、心地よい場所で過ごして頂けるよう努めている。また思いを伝えられない入居者に対しては、表情等でキャッチし、居室に戻って頂き、寛いで頂く誘導を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に自宅で使われていた家具や衣類、小物、化粧品等持参して頂き、自立度の高い方は、テレビやラジオを持ち込んで頂き、居室が自宅と同じように過ごせるような配慮をし、安心できる空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者一人一人の出来ること、解かる事を見極め、個々に移動時など、手摺りを使用したり、両手引きをしたり、後方から見守ったりと、安全且つ出来るだけ車いすに頼らず、自立した生活が送れるような支援を心掛けている。		

平成29年度

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム湘南かさま

作成日： 平成 30年 1月 13日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		入居者が要介護5の方が8名いらっしゃり、1Fユニットでは5名該当する。介護度がどんどんとあがり、1Fではミキサー食の方が6人もおり介護だけでなく、食事作りにも時間が掛かる。	退職者が出ても、なかなか次の入職者に結びつかず、ぎりぎりの人数でシフトを回している状態なので、調理員を雇用し、昼食と夕食作りを行ってもらい、介護の負担軽減を図る。	本社と相談し、近くに住む人の雇用を焦点に充てる。職安・新聞折り込み等活用。	6ヶ月
2		職員の高齢化。50代と60代が多く、40代以下の採用を行い、60代の雇用契約の見直しを図る時期に来ている。	50代・60代の職員は、これからの施設の運営が潤滑化出来るよう、若い・新しい職員が意欲を持って仕事に従事できるような環境作りに努めていく。	本社と相談し、即戦力・管理者候補になれるべく人材の確保を行う為、40代以下の正社員の雇用を行う。それにより体力的に厳しい、60代の夜勤を減らし、その分日勤帯の業務を行う。	12ヶ月
3		殆ど入居者全員が屋外は車椅子移動の為、なかなか職員だけでは、外出支援が出来ない状況にある。	家族会などの席で、家族も巻き込みながら例えば、花見など日程を提示し、それに合わせて来訪して頂き、外出する。	家族と直接会う機会のある家族会を大いに活用し、日程設定して、来て頂ける家族と一緒に外出の機会を得ていく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月